

奈良県立万葉文化館蔵

『懷風藻』 解題

井上 さやか

【書誌情報】

(貴重書番号：口44)

〔体裁〕 版本、袋綴、五つ目綴、二冊

〔表紙〕 墨表紙

題簽「懷風藻 金」(上巻)、「懷風藻 玉」(下巻)

見返し「星彩射斗波瀾衝山／懷風藻／銅駝坊碧鷄堂  
繡梓」

〔料紙〕 楮紙

〔寸法〕 縦二七・一cm、横一七・二cm

〔行数等〕 本文八行、一八字詰

〔刊記〕 天和四甲子歳正月良辰／銅駝坊書肆／長尾平兵衛刊行

〔刊年〕 天和四年(一六八四)

〔書肆〕 長尾平兵衛

〔その他〕 蔵書印、書入れ、ともに無し。少虫損。

【解説】

『懷風藻』は、天平勝宝三年(七五一)に成立したとされる、現存最古の日本漢詩集である。天智天皇代から孝謙天皇代にかけて作られた漢詩が収められている。撰者は諸説あるが未詳。序文には、作者六十四名、詩数一二〇首を収載したとあるが、現存は一一六首または一一八首であり、伝本により異なる<sup>①</sup>。諸本いずれも「長久二年冬十一月二十八日燈下書之古人三餘今已得二者也 文章生惟宗孝言」の識語を持ち、一〇四一年の写本が祖本である<sup>②</sup>。

本資料は、刊記を有する版本としては最古のものである。収録詩数は一一六首。他に、宝永二年(一七〇五)、寛政五年(一七九三)の刊本が知られるが、いずれも天和四年本を踏襲した内容である。「山重頭校本」とも称された校合本で、巻末に山重頭(山脇道圓)の「題懷風藻後」を載せる。二十三カ所の墨格があり、林羅山らの検証に基づく本文系統とは一線を画すことが指摘されている<sup>③</sup>。

註

① 辰巳正明『懷風藻 古代日本漢詩を読む』新典社、二〇一九年

② 沖光正「懷風藻の諸写本」『懷風藻 漢字文化圏の中の日本古代漢詩』

笠間書院、二〇〇〇年

③ 土佐朋子「『懷風藻』伝本および本文の諸問題」『東京医科歯科大学 教養部研究紀要』第四十四号、二〇一四年

